

『十字架の陰陽師』設定用 賀茂在昌関連年譜

※太字が架空設定 年齢は数え年

◇勘解由小路（賀茂）在富 在昌（宇治丸）父

延徳2年（1490） 2月・[勘解由小路在富](#)生

永正4年（1507） 18歳 叙従五位下兵部少輔

-永正5年（1508） [大内義興](#)上洛

永正9年（1512） 23歳 任暦博士

結婚、室・清原宣賢（1475-1550・父吉田兼俱）娘・木根子（1495乙卯-1562）

永正11年（1514） 25歳 任陰陽頭

永正14年（1517） 28歳 8月・在富父在重没

-永正15年（1518） 8月・1508より在京の大内義興、周防山口に帰国

大永4年（1524） 35歳 甲申 娘日枝子生（1542に土御門有春継室）

-正三位[万里小路秀房](#)（1492-1563）娘・[貞子](#)15歳、[大内義隆](#)（1507-1551）18歳正室として山口下向

大永7年（1527） 38歳 丁亥 末娘阿多子生（1545に山科言継側室）

-享祿元年（1528） 12月・大内義興没、義隆22歳家督相続

天文5年（1536） 47歳 叙従二位

6月・正五位上武家伝奏[広橋兼秀](#)31歳（1506-1567）と娘・光子14歳（[広徳院喝食](#)）山口下向

7月・[天文法華の乱](#) 在富邸罹災（半焼）、吉田神社に避難 生存子女、日枝子12歳・阿多子9歳

在富、大内義隆32歳を頼り山口下向 妻の弟・[吉田兼右](#)（1516-1573・21歳）も同行

翌年・在富宮内卿免官

天文7年（1538） 49歳 正三位行右衛門督[持明院基規](#)47歳（1492-1551・[前年周防下向](#)）とともに帰洛

◇勘解由小路（賀茂）在昌 幼名宇治丸

天文8年（1539） 己亥 1月・賀茂在昌、山口に生 幼名[宇治丸](#) [今八幡宮](#)に預けられる

（[慶長4年（1599）81歳にて没との記録](#)だが、61歳の誤りという設定。以後年齢はそれに基づく。）

母・正四位上算博士[大宮伊治](#)（1496-1551）娘・佐井子/[おさい](#)20歳（1520-・正室上臈・のち大内義隆継室）

大内義隆非嫡出女・広（1539-1604・のち在昌正室）、山口に生 [高嶺神明宮](#)禰宜預かり

母・広橋兼秀娘・光子17歳（1523-・1536山口下向・[広徳院理光](#)）

在富弟賀茂在康息・[在種](#)（1521-1551）19歳・在富養子・叙従五位下

（[史書には21歳没の記録があるが、31歳没の誤との説を採る](#)）

-天文11年（1542） 1月・大内義隆、出雲の[尼子氏へ遠征](#)、翌年2月大敗帰還

-天文14年（1545） 大内義隆39歳室・おさい（[大宮佐井子](#)26歳）、嫡子亀童丸（[義尊](#)・1545-1551）出産

正室万里小路貞子、離縁して帰洛 おさい、貞子旧邸・東の御殿に住む

天文15年（1546） 8歳 外祖父・大宮伊治51歳山口下向、宇治丸・広の養父となる

養父に算学、今八幡宮および高嶺神明宮にて[吉田神道](#)を学ぶ

-天文18年（1549） 6月・将軍[足利義藤（後義輝）](#)、[三好長慶](#)の謀反により近江坂本に敗走

天文19年（1550） 12歳 ユリウス暦8月・[フランシスコ・ザビエル](#)司祭（1506-1552）一行薩摩に来航

11月・ザビエル一行山口到来、大内義隆に引見

天文20年（1551） 13歳 在富62歳 叙正二位

-1月・ザビエル一行上洛、山口を経て3月平戸帰還

3月7,14日・[伊勢貞孝](#)邸に会見中の三好長慶に対し、将軍方進士賢光による[暗殺未遂事件](#)

3月14日・在種31歳、養父在富により横死 上記の事件に携わったことが原因

-3月15日・将軍方の三好政勝と香西元成が三好長慶本拠地丹波宇津に侵入
 -4月・ザビエル一行山口再訪、許可を得て布教 ロレンソ了齋 (1526-1592) 入信
 8月・ザビエル豊後府内に行き、大名大友宗麟 (義鎮) より布教許可を得る
 同月28日～9月1日・陶隆房・内藤興盛の乱、大内義隆・大宮伊治ら戦死
コスメ・デ・トーレス司祭 (1510-1570) の助けにより豊後府内に逃れる。広受洗・洗礼名カタリナ
 広共々堺を経て上洛、嗣子認知を得られず、山科言継43歳 (1507-1579) 邸に寓居
 天文22年 (1553) 9月・在富室木根子 59歳、山科言継 45歳三男鶴松丸7歳を相続に要請
 母・在富娘阿多子 (1527-・1545 19歳にて言継側室) 後、橘朝臣氏薄以緒養子・薄諸光 (1547-1585)
 天文23年 (1554) 16歳 1月・嗣子と認められ元服 在昌と号 叙正六位上行曆博士
 3月・結婚、室・大内義隆遺児・広 16歳
 弘治元年 (1555) 17歳 乙卯 長男宇佐丸 (メルシヨル) 生
 -弘治3年 (1557) 3月・大内義長毛利軍侵攻により敗死、山口大内氏滅亡
 永禄元年 (1558) 20歳 戊午 長女すえ (陶子) 生
 -11月・将軍足利義輝帰洛
 永禄2年 (1559) 21歳・在富 69歳
 11月2日 (ユリウス暦11月30日) ガスパル・ヴィレラ司祭 (1525-1572) 一行上洛、四条界限に逗留
 和暦12月8日 (ユリウス暦12月24日) 在昌受洗 洗礼名マノエル (エマヌエル)
 永禄4年 (1561) 23歳 辛酉 次女かな (可奈子) 生 (後、土御門久脩室)
 -8月・ヴィレラら堺に下る
 -永禄5年 (1562) 肥前横瀬浦開港 義母木根子 68歳にして卒去
 -永禄6年 (1563) ロレンソ了齋イエズス会に正式入会、修道助祭 (イルマン) となる
 永禄7年 (1564) 26歳・在富 74歳 11月・在昌一家、豊後に向け出発
 次女可奈子 4歳は山科言継 (58歳) 邸預かり
 和暦12月1日 (ユリウス暦1565年1月3日) ・伊予堀江で次男戎丸 (在信) 生 ルイス・フロイス司祭
 (1532-1597)、ルイス・デ・アルメイダ助祭 (1525-1583) らと出会い、妻を施療される
 永禄8年 (1565) 27歳 1月・長男宇佐丸、数え11歳にして修道誓願、修道名メルシヨル (メルキオール)
 -6月・将軍足利義輝二条武衛陣にて戦死 ヴィレラ一行京追放、堺に逃れる
 8月・父在富 76歳没
土御門有春 (1501-1569) 四男の福寿丸 (1553-1575・13歳)、在高として勘解由小路家相続
 母・在富娘日枝子 (1524-・1542 19歳にて有春継室)
 -永禄9年 (1566) ルイス・デ・アルメイダ天草志岐に教会を建てる
 永禄11年 (1568) 30歳 豊後の府内教会に滞在 三女鞠 (マリア・1568-1635) 生
 -元亀元年 (1570) 6月・フランシスコ・カブラル司祭 (1529-1609) 天草に到着、コスメ・デ・トーレスに代
 わって日本布教区責任者に就任、適応主義否定 9月・トーレス天草志岐で帰天
 -元亀4年/天正元年 (1573) 7月18日・将軍足利義昭、信長軍に降伏 7月28日・改元 12月28日・土御
 門有脩 (1527-1577) 息・土御門久脩 (1560-1625・14歳) 叙従五位下任陰陽頭
 天正3年 (1575) 在高没 (23歳)
 久脩16歳、在綱として勘解由小路家相続、叙従五位上任左馬助 室・在昌次女可奈子 (1561-・15歳)
 -天正4年 (1576) ニュッキ・ソルディ・オルガンティーノ司祭 (1533-1609) 上洛、四条坊門室町西入姥柳
 町に南蛮寺再建
 天正5年 (1577) 38歳 1月2日・土御門有脩没 3月26日・久脩18歳・土御門復姓 閏7月12日・在昌
 帰洛、叙従五位下任陰陽頭 (長男メルシヨル23歳と長女陶20歳、三女鞠10歳は豊後府内に残る)
 -11月・織田信長任右大臣

天正7年(1579) **40歳** 3月・山科言継没 5月・安土城落慶式 息子在信と共に祓役として出仕
 -巡察師[アレッサンドロ・ヴァリニャーノ](#)司祭(1539-1606)来日
 -天正8年(1580) **41歳** メルシオル26歳、イルマン(修道助祭)となる
 -ユリウス暦9月12日・[スペイン・ポルトガル同君連合化](#)
 -12月・土御門久脩、叙正五位下任天文博士
 天正9年(1581) **42歳** 10月19日・叙従五位上
 -ガブラル日本布教区責任者解任、[ガスパル・コエリョ](#)司祭(1530-1590)日本準管区長に就任
 天正10年(1582) **43歳** 1月29日・[天正十年改暦問題](#) 在昌、土御門久脩と共に安土城に召され討論
 6月2日・本能寺の変 従四位下刑部少輔幸徳井友忠(1531-1601)を頼り奈良に下向 8月・帰洛
 -和暦9月19日/ユリウス暦10月5日/グレゴリオ暦10月15日・[グレゴリオ暦](#)施行
 -天正11年(1583) [ペドロ・ゴメス](#)司祭(1535-1600)グレゴリオ暦を携えて来日、豊後府内にて講義
 天正13年(1585) **46歳** 叙正五位上
 メルシオル31歳、イエズス会退会、3-4ヵ月後天草で暗殺 三女鞠**17歳**、修道女となる
 -3月・羽柴秀吉関白宣下 -6月・[山科言経](#)(言継嗣子)勅勘、下洛し大坂天満本願寺に寓居
 -天正14年(1586) 7月・[秀吉九州征伐](#)(翌年4月まで) 9月・秀吉賜豊臣姓 12月・島津方により豊後府内・丹生島大破
 天正15年(1587) [ペドロ・ゴメス](#)豊後より天草に逃れ開講 三女鞠**19歳**師事
 -6月・[伴天連追放令](#)、京都南蛮寺・長崎公館棄却、堺南蛮寺も棄却されるが日比屋了瑠邸内に移転存続
 在昌一家は以後堺南蛮寺に通参、[密乗山念仏寺](#)([開口三村大明神](#)別当寺)塔頭遍照院に逗留し、小倉浄因季雅・和高彦らと出会う
 -9月・豊臣秀吉聚楽第建立
 天正18年(1590) **52歳** 4月21日・[方広寺](#)大仏殿[地鎮祭](#)執行 叙従四位上
 -5月・ペドロ・ゴメス司祭日本準管区長に就任
 6月・[天正遣欧使節団](#)長崎帰国、11月-翌2月上洛 三女鞠**23歳**、同行し上洛
 -天正19年(1591) 山科言経帰洛、実質復権
 -天正20年/文禄元年(1592) 4月・[文禄の役](#) 12月8日・改元
 -文禄4年(1595) 7月15日・豊臣秀次廢嫡切腹 土御門久脩尾張に配流
 -文禄5年/慶長元年(1596) 閏7月9日,12-13日・伊予-豊後-伏見地震 8月28日・[サン=フェリペ号事件](#) 10月27日・改元 12月8-19日・[日本二十六聖人殉教](#) 在昌一家は以後表面上棄教
 -慶長2年(1597) 7月・[慶長の役](#)
 -慶長3年(1598) 8月18日・豊臣秀吉没 12月7日・山科言経正式に朝廷復帰
 慶長4年(1599) 3月26日・叙正四位下(史書には叙従四位下)
 8月・危篤、山科言経の上奏により叙従三位(非参議)、ほどなく**61歳**にて没
 真言宗[六波羅蜜寺](#)にて荼毘 墓所：堺の同門・念仏寺遍照院 戒名：常在院萬円天昌居士(慶長19年(1614) 在信因幡下向時に若桜神光寺に移葬)

◇勘解由小路(賀茂)在信/和賀佐茂信 賀茂在昌次男・嗣子

永禄7年12月1日(ユリウス暦1565年1月3日) [伊予堀江にて生](#) 幼名戎丸、洗礼名フィデル([フィデリス](#)) 豊後府内に育つ
 天正5年(1577) 14歳 上洛、元服 叙正六位上
 天正7年(1579) 16歳 5月・安土城落慶式 父在昌と共に祓役として出仕
 天正10年(1582) 19歳 6月・本能寺の変 奈良に下向 8月・帰洛
[柳生石舟斎宗厳](#)(1527-1606) 娘勝子(1564-・幸徳井友忠姉姪・母幸徳井友栄 1487-1558 娘)と通じ、翌天

正 11 年（癸未）長男吉備丸（1583-1645・後幸徳井友景）生 勝子は柳生家臣安井永順正妻となり、吉備丸は幸徳井友忠（1541-1601）養育

天正 16 年（1588） 25 歳 堺在住の声聞師・大和神社社家和高彦（1550-1620）の娘・檜乃（1571-・18 歳）と結婚 義母は小倉淨因季雅（1556-1625）姉・杉（1554-1618）

天正 18 年（1590） 27 歳 方広寺大仏殿地鎮祭に際して父と共に仕、叙従五位上

天正 19 年（1591） 28 歳 3 月・フロイス、ヴァリニャーノ、伊東マンショ（1569-1612）らと共に天草下向 -ペドロ・ゴメス司祭に師事

天正 20 年（1592） 29 歳 壬辰 1 月・嗣子貴船丸（在季）生

文禄 2 年（1593） 30 歳 ペドロ・ゴメス『天球論』著 同年帰洛、叙正五位下任大蔵大輔曆博士

文禄 5 年/慶長元年（1596） 閏 7 月・正五位下行大蔵大輔博士賀茂在昌として書簡

慶長 2 年（1597） 34 歳 信仰秘匿のため、吉田神社祠官吉田兼見（1535-1610・63 歳・在昌姻戚従兄）に師事、吉田神道を学ぶ

慶長 3 年（1598） 35 歳 3 月・史書に在信初出 -9 月・豊臣秀吉没 ゴメス長崎で開講

慶長 4 年（1599） 36 歳 8 月・父在昌没 母・広、堺に下り念仏寺塔頭遍照院に住 9 月・任陰陽頭

慶長 5 年（1600） 37 歳 3 月 2 日・叙正五位上 3 月 28 日・幸徳井友豊（1566-1602・35 歳）叙従四位下任陰陽助 同日・在信も叙従四位下任修理大夫（行陰陽頭兼務）
-9 月・関ヶ原の戦い 11 月・土御門久脩一時上洛、翌年帰洛

-慶長 6 年（1601） 38 歳 1 月 30 日・土御門久脩 42 歳、後陽成天皇の天曹地府祭齋行

慶長 7 年（1602） 39 歳 辛丑 娘梅子生

-慶長 8 年（1603） 2 月・徳川家康任征夷大將軍

慶長 9 年（1604） 41 歳 母・広 66 歳堺にて没 戒名：広昌院十照月輪大姉
在信一家は堺に下り大寺念仏寺塔頭遍照院に住、開口三村大明神神主 徒歩 10 分程の距離である堺南蛮寺（榎屋町西 1 丁）にも通参
娘梅子（1602-）3 歳は山科言緒（言経嗣子・1577-1620・27 歳）養子（のち烏丸光広1579-1638 側室・藤原氏勘解由小路資忠1632-1679 生母）
-洛中天主堂再建

慶長 10 年（1605） 42 歳 乙巳 堺在住（ここまで史書にあり：10 月 11 日「勘解由小路修理大夫在信」）
三男石丸（高鴨和信）生

慶長 15 年（1610） 46 歳 方広寺大仏殿再興地鎮祭齋行（「賀茂在昌」名義で記録にあり）
土御門久脩 51 歳正五位下行天文博士が齋主を務め、在信は従四位下行陰陽頭にも拘わらず末席に置かれる

-慶長 16 年（1611） 3 月 27 日・後水尾天皇踐祚 5 月 5 日・土御門久脩、後水尾天皇天曹地府祭齋行、叙従四位下 11 月 12 日・幸徳井友景 19 歳叙従五位下

-慶長 17 年（1612） 3 月 21 日・幕府直轄地に対するキリシタン禁教令

慶長 18 年（1613） 47 歳 6 月・イギリス商船クローブ号平戸来航、8 月下旬・ジョン・セーリス提督（1580-1643）堺に立寄、9 月・駿府で徳川家康に謁見、望遠鏡等を進呈、10 月・京都発、12 月 5 日・平戸より出帆
妹鞠子（43 歳）これに同乗、ロンドンを経てアイルランドで生涯を全う
-12 月 19 日・全国的なキリシタン禁止令

慶長 19 年（1614） 51 歳 -7 月 26 日・方広寺鐘銘事件、豊臣方と徳川方の対立表面化
-9 月 24 日・高山右近らキリシタンと外国人宣教師、国外追放
同月・小倉淨因季雅を頼って妻子を伴い因幡に落ち、八東郡若桜宿に移住 松神大明神（現・若桜神社）神主 妻方の姓・和と「賀茂在信」の字をひねって和賀佐茂信と改名 和賀佐家創始
三男石丸（高鴨和信）10 歳は外祖父和高彦引き取り、大和葛城に落ち高鴨神社神主高鴨家祖
-10 月 12 日・豊臣軍、堺を占領

-11月19日～12月20日・[大阪冬の陣](#)

-慶長20年／元和元年（1615） 4月28日・[大坂夏の陣](#)（4月26日～5月7日）にて堺全焼 以後、幕府の直轄下となる

-元和4年（1618） 幸徳井友景 35歳・任陰陽頭

寛永15年（1638） 75歳にて没 戒名：日照院十光信空居士

-[島原の乱](#)終結

◆史実は[Wikipedia](#)参照

◆参考資料：[戦国時代の陰陽師：賀茂在昌](#)